医事業務への成長に大きくつながる新時代の検定

広告記事

～医事入院請求能力と問題解決能力を問う「入医検®」の1級合格を受けて～

（株）JSMA　技能認定振興協会
【司会】大阪警察病院　事務部長　**小前貴志**氏
上尾中央総合病院入院医事課課長代理　**武田益昌**氏（第４回１級合格）
藤田医科大学ばんたね病院　**福嶋悦子**氏（第４回１級合格）
株式会社ソラスト運営統括部　西日本エリア　スーパーバイザー　**森岡秀一**氏（第２回１級合格）

「入医検」：本検定は入院請求に特化し診療報酬の深い理解を問い，医療現場で発生する事案に対しての問題解決能力を図る検定です。基礎的な問題から高度な知識を問う設問も幅広く出題されており，本検定を受験することで，現在の“医事知識のレベル”を知ることができます。本検定を経て自らが勤務する医療機関の経営層に対して，医事基礎知識を発揮しながら経営改善に向けて提案できる人材を求めています。技能認定振興協会が主催して2023年より一般公開，８月に第３回，11月には第４回が実施され，本年11月に第５回開催が予定されています。

小前　本日は「入医検」の１級合格者にお集まりいただきました。「入医検」は単なる医事知識を評価する検定でなく，将来的に経営層に提言でき，病院の中心的存在になる人材の評価の一つとして誕生した検定です。受験前は「入医検」に対して，どんなイメージをもっていましたか。

武田　日本初の入院医事業務に特化した技能検定ということで，とても新鮮な印象がありました。また，試験の概要をパンフレットで事前に拝見していたのですが，記述問題などもあり「正直むずかしそうだなぁ」という印象も受けていました。

福嶋　『月刊／保険診療』の広告で検定の存在を知りました。他の医療事務系の試験とは異なり，より「入院業務に関する専門知識」が必要な試験なので，正直，合格はむずかしいかもしれないと思っていました。

森岡　受験前は漠然と入院の請求業務に特化した算定要件などがベースの検定と理解していました。そのため医科点数早見表をもって受験すれば，１級とは言いませんが，合格できる試験なのかなと楽観的に考えていました。

小前　「入医検」を受けてみて受験後の印象はいかがでしょうか。３級でも合格率は25％程度であり，１級は超難関です。その難関試験で見事に１級に合格されています。

武田　１問１問丁寧に問題を解いていたら，あっという間に制限時間を迎えてしまいましたので，見直しをする余裕がなかったです。最後の記述問題については，もう少し追記したい部分がありながらも制限時間となってしまったので，その点が心残りでした。

福嶋　通常業務の知識でも十分に回答できる問題が多くありました。一方，当院で算定していない項目もあり，調べるのに時間がかかってしまいました。まだまだ知識が足りていない部分があると感じており，全体的に時間が足りなかったです。

森岡　受験前に第１回合格者のセミナーを動画視聴して挑みました。医科点数早見表やDPC点数表に関する算定要件などの机上論のみでなく，請求から審査，減点査定，その後の対応など，実務に基づく流れの対応を問われる内容や，医学的ガイドラインに関する内容がありました。一定程度の実務経験を行っていないと回答が困難な問題があり，そういった点については非常に良く考えられた検定だなという印象を受けました。

小前　森岡さんの検定後の印象にもありましたが，「入医検」は，単に知識を問う問題だけでなく，実務における問題解決能力を問う記述式問題があることが特徴だと思いますが，いかがでしょうか。

武田　非常に練られた問題だと感じました。単にレセプト算定に関する記述だけにとどまらず，病院の医事業務を取り巻く，様々な起こりうる問題に対しての対応方法について問うものもあり，試験問題を解きながらも，自身の今までの対応方法が適切であったのか振り返るきっかけにもなりました。

福嶋　私も同じく，記述式問題は実務でも起こりうる問題だったので，現場ではどのように対応するかを想定しながら回答しました。また，役職者など病院の立場の違いで，求められる対応力も違いますので，今後の業務につながる問題だったと思います。

森岡　先の質問で回答した内容と重複する部分もあります

が，本当に皆さんの感想どおりだと思います。実務上でぶつかる実際の課題に対して，どのように考え，解決し，どのように今後の対策を立てるかを回答として言語化・文章化する必要があり，普段何気なく行っていることでも，言語化することのむずかしさを感じ，改めてとても勉強になったなと思います。

小前　実際に起きる場面を想定した記述式問題をクリアして見事１級合格されたわけですが，「1級合格」という評価は仕事をするうえでの自信というか，何かしらの感情が生まれましたか。

武田　自信になりました。院内やグループ病院内での試験は古くからあるのですが，今回のように外部の試験を受験する機会がありませんでしたし，グループ病院内で唯一の１級合格者となり，日々の業務での知識の積み重ねがこのようなかたちで出て非常に嬉しかったです。

福嶋　自分がどこまで理解できているのか具体的に把握することができました。１級合格を上長に報告でき，以前よりも自信をもって仕事に取り組めている気がします。

森岡　なんと言っても１級合格者の合格率の低さが物語っているかと思いますが，今まで得た知識や経験が間違っていなかったと自己肯定感に繋がったことは確かです。また，正解，不正解という言葉で区別できないことが現実には多く発生し，その都度不安と闘うこともありましたが，今回の合格は自分を信じて業務を進められる経験になったと思っています。

小前　常に今以上に成長を求めること，挑戦することは大切だと思いますが，「入医検」や検定だけではなく，何かチャレンジしていることはありますか。

武田　外部の病院の事務職の方の研修などを積極的に受けて，グループ以外の考え方など良いものを自身に取り入れてさらに実践することにチャレンジしています。日々意識しているのは，物事を教えるとき，なぜそうなるのか，なぜ必要なのかなど，一つひとつに対して説明を加えるように意識しています。説明できるようになるには，自身がしっかり調べて理解してから答えるように意識もしています。外部研修はその知識や考え方の裾野を広げる手段の一つとしても有効であると感じています。

福嶋　業務上で言えば，単なるマニュアル作成ではなく，なぜその点数が算定できるかが理解できるような資料作成を目指しています。例えば，糖尿病の患者さんに対し，ただ単に在宅自己注射指導管理料を請求するのではなく，糖尿病とは何か，インスリンの種類や打ち方の違い等を理解し知識を深め，医師など医療職とスムーズな連携がとれるように工夫しています。

森岡　受験をきっかけに，日々の業務を行うなかで「絶対に現状に満足しない」という気持ちをもつようになりました。未知のものへの好奇心と探求心を常にもち，少しばかりの矜持を添えて医療事務という職務を行っていること，これは毎日がチャレンジであると思っています。

小前　受験や合格がプラスに働いていますが，「入医検」をこれから受験しようか迷っている人，１級合格を目指す人，残念ながら不合格となった人などへの，受験の意義や受験対策など，何かメッセージはありますか。

武田　日々の業務のなかで何かを調べるときには，忙しいなかであっても，すぐに聞いて回答を得るのではなく，診療報酬点数早見表などを自分で開いて，自分のなかで理解して咀嚼することが重要だと思います。もし他の人に聞くのであれば，自分で調べたうえで自身の解釈が合っているのか尋ねるようにすると良いと思います。日頃から診療点数早見表やDPC点数表などを見ていれば，算定要件・施設基準を完全に覚えていなくても「これは確かこのあたりに載っていたような……」と何となくページの箇所を思い出すようになり，試験で行き詰まってしまっても，早見表を開くスピードが早くなると思います。

受験の意義については，自分自身のスキルやレベルを知るうえでは有効なツールであり，試験結果通知書には回答した内容に対してアドバイスが詳細に記載されており，それを読むことで，知識で足りなかった部分を知ることができるので非常に意義があると感じています。

福嶋　すべて覚えておくことはむずかしく，調べないと回答できない問題が数多くあり，診療点数早見表のどこを調べたらよいのか把握しておくと，時間短縮になると思います。当院では１人１冊ずつ早見表が配られていて，日頃から使い慣れるようにしておくと良いと思います。

森岡　２級・３級に合格された方は，１級に紙一重の状態だと思いますので，ぜひ諦めずに１級を目指して再受験してほしいと思います。また，残念ながら不合格となった方でも，受験したときに感じたむずかしさは，現在の業務でむずかしいことを実施されている証拠だと思いますので，それをうまく言語化し説明できるようにして再挑戦していただければと思います。

小前　熱いメッセージありがとうございます。本日は見事に１級に合格された皆さんの声をお聞きし，実務向きの検定であることが再認識できました。合格，不合格の結果は出ますが，受験に向けて勉強など準備した事実，また受験しようと前向きな気持ちをもったことは合否に関わらず今後の成長につながることは間違いありません。本日はお忙しいなかありがとうございました。